

0 社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク
2024年度 事業計画書(2024年5月14日 総会承認)

<実施期間>

2024年4月1日～2025年3月31日

【参考】規約 第2条(目的)および第3条(活動)

第2条

本ネットワークはNPO/NGOの連携を通じて、民間非営利セクターの定着と社会的な位置づけの向上を目指すとともに、あらゆる組織が社会的責任を果たし、住みよい社会を創造することを目的とする。

第3条

本ネットワークは第2条の目的(注)を達成するために、次の活動を行う。

- (1)「SR(社会的責任)のあるべき姿」についての検討と学習
- (2)SR向上のための普及啓発及び情報発信
- (3)民間非営利セクターからのSRの向上に関する意見の集約と提言
- (4)その他、本ネットワークの目的を達成するのに必要な活動

<2024年度の方針>

2008年の設立以来17年目を迎える本年度は、SDGsの達成や持続可能な成長の実現に向けた本質的な取り組みを促すとともに、人権など深刻な課題の解決に向けた社会のしくみづくりに向けて、多様な主体による連携を、特に地域において推進できるよう、働きかける。

【1】NPO/NGOが自ら取り組む社会的責任(以下、SR)の普及

NPO/NGOが自らの組織で取り組むSRを推進するため、ハラスメントやセーフガーディングといった人権課題を含む具体的な取り組みを紹介し共有する機会を広げる。

【2】他セクターとの協働によるSRの普及

人権など深刻な課題の解決に向けた社会のしくみづくりに向けて、さまざまなセクターと連携してSRへの取り組みを促進するべく、NPO/NGOの取り組みや成果を他セクターと共有し、また他セクターの取り組みからも学ぶとともに、他セクターのSRへの取り組みを促すNPO/NGOを育成・支援する。

【3】社会的影響の大きい課題に対するマルチステークホルダープロセスの推進とアドボカシー(政策提言)の強化

SDGsや人権をはじめとする社会的な影響が大きい課題に対して、マルチステークホルダープロセスにより社会的責任が果たされることに尽力するとともに、その課題の重要性と具体策を提言するとともに、地球環境や貧困などの国際的な課題へのアプローチにおいてもSRへの配慮がなされること、またその担い手自身が社会的責任を果たすことの必要性を訴える。

上記方針を実現することを目的としつつ、下記のプロジェクトを中心として、フォーラムやセミナーなどは対面とオンラインのハイブリッド開催とし、また、会費徴収については、2020年以降に引き続き今年度も見合わせることをとする。

一方、20年度以降も事業を継続し、講師謝金等の経費支出が続いていることから、前回総会時には「24年度からは会費の徴収を再開する方向」としてご承認をいただいたが、これまでと同様の収支状況が続くと想定して、

次(2025)年度の総会開催時に、再度提案したい。

<2024年度の事業計画>

【1】社会責任に関連する規格の策定・普及(主担当幹事団体: 難民を助ける会)

ISO26000 または社会的責任に関連する新たな規格の策定に向けて動きがある場合には、NGO セクターの意見を集約するとともに、他セクターを交えた議論の場に参加し、国内で共有の機会を設ける。

1.ISO26000 の策定に携わった世界各国の関係者で構成される「ISO26000 Stakeholders Global Network(SGN)」の NGO メンバーとして、NN ネット代表協議者(堀江)が参加するとともに、11月にSRセミナーを開催する。

2.組織ガバナンスに関する規格 ISO37000 策定に向けた TC309について日本の国内委員会が設置されることになり、川北秀人が NN ネット代表協議者として NGO セクター委員の一人として議論に参加し、その経過を会員等と広く共有する機会として、9月にSRセミナーを開催する。

3.SGN を日本国内でフォローアップし、国内で他のステークホルダー(SJN:ステークホルダー・ジャパン・ネットワークメンバー)間での情報・意見交換を行う。

4.ハンドブック『これからのSR—社会的責任から社会的信頼へ』、『策定に関わったNPOが読み解くISO26000』を関連イベントやホームページを通じて積極的に販売、または配付し、SRへの取り組みを推進する。

【2】地域における多様な主体によるSR推進(主担当幹事団体:ひろしまNPOセンター、IIHOE)

「地域における多様な主体によるSR推進プロジェクト」として、「多様な主体の協働で進めるSDGs」「マルチステークホルダー連携」などのテーマでのセミナーや事例共有会等の開催をNNネットの地域会員団体、および関係する団体に対して呼びかけ、地域で本テーマに関するセミナー等を開催する。

1.SRフォーラム 2024「地域の持続可能性の向上に、なぜ人権が重要か

- 外国人も『働き続けたい』と感じる地域づくりに向けて」

1993年の創設から20年を経た外国人技能実習制度は、今年、大きな転換点を迎える。「人材育成を通じた開発途上地域等への技能、技術又は知識の移転による国際協力を推進すること」を目的とした同制度は、日本人の生産年齢人口が1995年以降減少に転じたことから、急激に利用が広がった。しかし、その本来の目的に合う運営がなされていないことから、人権上の深刻な課題が内外から指摘され続けてきたことなどを受けて、政府は「技能実習制度及び特定技能制度の在り方に関する有識者会議」を設け、その最終報告書をもとに、今年2月9日には、関係閣僚会議で政府の対応が決定された

(本文 <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/gaikokujinzai/kaigi/dai17/siryou2-2.pdf>、

概要 <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/gaikokujinzai/kaigi/dai17/siryou2-1.pdf>)。

技能実習制度の見直しによってようやく進められる外国人雇用の是正を皮切りに、地域の持続可能性の向上に、人権への取り組みがなぜ必要かつ重要なのかについて、有識者会議委員を務められた日本商工会議所・東京商工会議所の 大下英和氏と、日本における多文化共生の端緒を開いたダイバーシティ研究所の 田村太郎氏にお話を伺いながら、ご参加のみならずとも考えたい。

【日時】2024年5月14日(火)18:00～20:00

【形式】対面(地球環境パートナーシッププラザ)とオンライン(zoom ミーティング)の併用(ハイブリッド)

【主な内容】

発題①「より広く・より多く・より長く～地域経済の持続可能な発展に求められる外国人材受入と支援の在り方」

日本・東京商工会議所 産業政策第二部 部長(東京商工会議所 理事) 大下英和氏

発題②「生活者としての外国人受入れと持続可能な地域づくり～支援から共生へ、求められる「まなざし」の転換～」

一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村太郎氏

討論:外国人も「くらし続けたい・働き続けたい」と感じる地域づくりに向けて

質疑応答

2.SDGs の目標 12「持続可能な生産消費形態を確保する」(持続可能な消費と生産)のターゲット 12.7(「国内の政策や優先事項に従って持続可能な公共調達の慣行を促進する」)にちなんで、持続可能な社会責任公共調達の取り組みの拡がりをさらに促すために、昨年初めて開催した「12月7日を持続可能な社会責任公共調達の日に！」と題した SR セミナーを、12月に開催する。

3.国連による「ビジネスと人権」の文脈から、注目や取り組みが拡がりつつある人権について、企業やビジネスに限らず、より広範かつ基礎的な意味における人権についても再確認する機会として、7月にSRセミナーを開催する。

【3】NPO/NGOの社会責任(NSR)への取り組み推進(主担当幹事団体:ひろしまNPOセンター、IIHOE)

1. NPO/NGOの社会責任(NSR)に関する啓発

NPO/NGOが社会的な信頼を獲得し、他セクターと協働して社会的課題を解決していくために必須であるNPO/NGO自身の社会責任への取り組みの必要性や実践事例、調査結果の共有などを通じて啓発するために、IIHOE が主催する「NPO/NGOの社会責任(NSR)取り組み推進プロジェクト」(通称:NSRプロジェクト)と連携して、25年3月開催予定のSRセミナー等を開催する。

【4】SDGsと社会的責任(主担当幹事団体:難民を助ける会)

1. SDG 市民社会ネットワークの社会的責任ユニットに参加する。昨年政府が発表した「SDGs 実施指針改定版」に対する評価をはじめ、同ネットワークが行う政策提言活動に関し、公共調達における社会責任調達の観点からインプットを行う。

なお、今年度のSRフォーラムならびにSRセミナーについては、現時点では以下の通り計画・検討している。

日時(開催形式)	テーマなど
5月14日(火)18:00-20:00 (オンライン)	SRフォーラム2024「地域の持続可能性の向上に、なぜ人権が重要か - 外国人も『働き続けたい』と感じる地域づくりに向けて」 日本・東京商工会議所 産業政策第二部 部長 大下英和氏 一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村太郎氏
7月9日(火)16:00-18:00 対面とオンラインのハイブリッド想定	SRセミナー 第1回 (ビジネスのみならず、幅広い意味での人権関連を想定: 人権問題における当事者性、非人道性の高い兵器の抑止、 NPO/NGO自身による加害の可能性の抑止 といった論点を想定)

9月10日(火)16:00-18:00 対面とオンラインのハイブリッド想定	SRセミナー第2回 (ISO37000に向けたTC309関連を想定)
11月12日(火)16:00-18:00 対面とオンラインのハイブリッド想定	SRセミナー第3回 (ISO26000関連を想定)
12月6日(金)16:00-18:00 対面とオンラインのハイブリッド想定	SRセミナー 第4回 社会責任公共調達の日(本来は12月7日)
25年3月18日(火)16:00-18:00 対面とオンラインのハイブリッド想定	SRセミナー 第5回 (NSR を想定)

2024年度組織運営(事務局業務)計画

<実施期間>

2024年4月1日～2025年3月31日

<業務計画>

1. 会議等の開催

(1)第17回 通常総会の開催

日時:2024年5月14日(火)15:00～17:00

場所:地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)およびzoom meetingのハイブリッド形式

会場:東京都渋谷区神宮前 5-53-70 国連大学ビル 1F

zoom ミーティング

トピック: 社会的責任向上のためのNPO/NGOネットワーク(NNネット)第17回通常総会

<https://us02web.zoom.us/j/87236936583?pwd=dm90TVQvYjk4Q3BwRndwNi9xZkthZz09>

ミーティング ID: 872 3693 6583

パスコード: NNnetGA

議題:

- ・2023年度事業報告(案)・決算(案)の承認
- ・2024年度事業計画(案)・予算(案)の承認
- ・2024-2025年度幹事の選任
- ・2024-2025年度監事の選任
- ・その他

(2)幹事会の開催

- ・第162回幹事会 4月9日(火)14:00-15:30 オンライン開催
- ・第163回幹事会 5月14日(火)14:00-14:30 対面開催(※総会会場にて)
- ・第164回幹事会 7月9日(火)14:00-15:30 オンライン開催
- ・第165回幹事会 9月10日(火)14:00-15:30 オンライン開催
- ・第166回幹事会 11月12日(火)14:00-15:30 オンライン開催
- ・第167回幹事会 2025年01月14日(水)14:00-15:30 オンライン開催
- ・第168回幹事会 2025年02月18日(火)14:00-15:30 オンライン開催
- ・第169回幹事会 2025年03月18日(火)14:00-15:30 オンライン開催

2. 会員管理(担当:ひろしまNPOセンター)

(1)会員へのフォローアップ

- ・会員の入会、継続、休会等に伴う業務
- ・会員メーリングリストの運営と管理
- ・会員に対して、幹事会終了後、幹事会議事抄録を配信
(2024年度も、幹事会議事抄録の作成、会員MLへの投稿、ウェブサイトへの掲出は、持ち回りの前回の議長団体が担当。)

(2)会員データベース管理

- ・会員情報の整理と管理

(3)会費請求

・会員に対して会費の請求書を作成・送付(2024年度も、会費徴収は見合わせ。)

3. 会計(担当:IIHOE)

(1)日常的な会計

・管理ルールに従い、入金・支払い・精算等の手続きおよび記録を行う。

(2)資金管理と検査

・現預金などの日常の管理状況を検査する業務を行う。

・決算書の作成を行い、報告する。

・監事による監査を行う。

4. 広報(担当:ひろしまNPOセンター、IIHOE)

(1)ウェブサイト管理・運営に関する業務

・ウェブサイトの管理・運営を行う。

・外部からの代表アドレス宛ての問合せに対応する。

5. 在庫管理(担当:難民を助ける会)

(1)ハンドブックの在庫管理

・『これからのSR—社会的責任から社会的信頼へ』、『策定に関わったNPOが読み解くISO26000』の在庫の管理を行う。

6. 幹事会および総会準備に係る事務(担当:IIHOE)

(1)幹事会開催準備、報告

・幹事会開催の日程調整等

(2024年度も幹事会議事次第作成は持ち回りの議長団体が担当し、議事抄録作成、会員MLへの投稿、ウェブサイトへの掲出は、前回の議長団体が担当。)

(2)総会開催準備

・総会開催にかかる準備、資料作成等

以上